

# 「もしも」の広場

VOL.5

- ◎「思い悩むことは悪いことなのか？」
- ◎事前準備編「子供のいない夫婦の場合」
- ◎〈コラム〉「焼香の豆知識」
- ◎「おばあちゃんの嫁入り」
- ◎事後の手続き「香典返し」



## 『思い悩むことは悪いことなのか？』

一昨年ぐらいいから大手流通業者が葬儀業界に参入して来ました。その謳い文句は「従来の葬儀業界の不透明な部分を淘汰する」ということで、「わかりやすい」葬儀費用の価格表や「お布施の価格表」の提示、全国どこでも同じサービスが受けられるフランチャイズ化された葬儀社の設立などを行って

います。「お布施の価格表」については仏教界から抗議を受け、新聞などで取り上げられています。ですからご存知の方もいるかもしれません。今回は葬儀に関する「わかりやすさ」という点を掘り下げてみたいと思います。「お布施は読経や戒名への対価ではないので、定価はない。皆

さんのお気持ちだ」とお坊さんには言います。しかしお客様の側からすると「それでは困る。具体的にいくら払ったらいいの？」という疑問を持っているのが大半だと思います。私はその疑問に対して「わからないならお坊様に直接尋ねるのが一番です。葬儀業者では本当の答えはわかりませんよ」と伝えていきます。

最近知り合いのお坊様とこのようなお話をしたところ、その方は笑いながら「わからないことをいろいろと考え、思い悩むことも大事なだけど…」とおっしゃいました。それを聞いて私は「お布施の価格表」なるものに代表される「形だけのわかりやすさ」とは、人から「考えること、思い悩むこと」という大切なことを奪い去っているだけなのだと感じました。

「わかりやすく」すること自体は悪いことだとは思いません。しかし、大手流通業者の提示した価格表や全国一律のサービスが真の「わかりやすさ」になつているのかは疑問です。なぜなら葬儀には百人百通りの中身があり、それぞれの状況によつ

て大きく変わってくるものだからです。同じ規模の葬儀だからといって、中身まで同じになるはずは無いのです。故人の生きてきた歴史、遺族の状況や希望、地域性や宗教観などを十分にふまえた上で、葬儀の規模や内容、そして費用が決定されていくのです。したがって本来は遺族にきちんと話を聞き、希望に沿う内容を創り上げていく途中に「わかりやすさ」が求められているのだと思います。

「思い悩むこと」は決して悪いことではありません。そして「悩みに寄り添い、一緒に考えてアドバイスしてくれる業者」こそ、お客様にとって一番必要な葬儀業者なのだと思います。広告などの「入り口の段階

でのわかりやすさ・形だけのわかりやすさ」によつて、途中であれこれと悩むことは無かった。しかし、終わってみると葬儀社主導の中身を押し付けられただけの葬儀であった。そのような失敗をしないために、信頼できる業者を探す。その意味からも早目からの事前相談が役立つといえるのです。